

七福神巡りが一般的に定着したのは江戸時代。東京では谷中・隅田川の七福神巡りが古く、元祖山手・新宿山之手・板橋・東海が昭和の初期に誕生したと言われています。

文京区小石川に七福神が誕生したのは平成7年のこと。他地域の七福神に比べ歴史は浅いですが、多くの特徴があります。

1. 福祿寿

福祿寿は人の寿命を知るとされる道教の神様で、南極星の化身とされています。利益は子孫繁栄、富貴繁栄、健康長寿です。

江戸時代は、東京ドームの隣りにある「小石川後樂園」で祀られていたそうですが、東京ドームの敷地内に再興されました。

2. 毘沙門天 (源覚寺) こんにやく閻魔

その姿から闘いの神様のように見えますが、実は厄除け・恵方の神様なのです。財運を受け、大願成就を助けるとされています。

源覚寺の閻魔様は、目の悪い老婆に右目を与えて直したという伝説が残っています。感謝の印として老婆はこんにやくを備えるようになりました。

★源覚寺から伝通院へ向かう途中で善光寺があります。

★伝通院 徳川家康の生母、於大の方の墓

3. 大黒天 (福聚院) 伝通院の近くにある。

この大黒天様は、烏帽子で米俵という一般的な姿ではなく、甲冑をまとった武装神となっています。もともと大黒天はインドのシヴァ神で、創造と破壊を司りますが、福聚院の大黒天はその頃の姿のままなのです。かなり古いもので、文京区の文化財に指定されています。

4. 布袋尊 (真珠院) 七福神の宝船がある

正面の本堂の左脇をすり抜け、墓地の右手奥に行きます。布袋尊は高さ2メートルと大きいのですぐに分かります。スタンプ台は、境内入り口の右側に布袋堂という建物にあります。

5. 弁財天 (女弁天) (極楽水)

一般的に弁財天と言うと琵琶を持った女性神ですが、小石川七福神は女弁天と男弁天がいます。

弁財天といえば水の近くに祀られるもので、ここには極楽水という清泉が湧いていたそうです。残念ながら弁財天は祠におさめられていて姿を見ることはできません。スタンプ台はここにはなく、次に行く宗慶寺に弁財天のスタンプ台があります。

6. 寿老人 (宗慶寺)

寿老人は道教の神様で南極星の化身とされていますが、この説明は福祿寿と同じですよ。寿老人と福祿寿は中国では同じ神様とされているからです。日本に来たときになぜか二神になって伝えられました。

★石川啄木終焉の地

「働けどはたらけどなお、わがくらし楽にならざり」
明治44年にこの地の借家に移った啄木は、すでに病魔に侵されていた。明治45年4月、家族、友人に看取られ、結核により26歳の若さで亡くなった。

7. 弁財天 (男弁天) 徳雲寺

七福神巡りはたくさんありますが、男弁天は珍しいです。弁財天はもともとヒンドゥー教のサラスヴァティーという神様が起源で、「水(湖)を持つもの」という意味を持ちます。そこからインド古来の蛇・龍信仰とも相まって、「蛇」や「龍」だとされるようになりました。蛇の上に顔が乗るのは、弁財天と神仏習合した宇智神のお姿と言われています。この弁財天は秘仏なので姿を見ることはできません。弁天堂だけお参りしてください。

8. 恵比寿 (深光寺)

深光寺にはもともと恵比寿様の絵図の掛け軸が5幅も揃っていたことで、恵比寿が祀られるようになりました。

★林泉寺 縛られ地蔵

人々が願いをかけるとき地蔵尊を縄でしばり願いが叶うと縄をほどくので、しばり地蔵ともいわれた。水元公園近くに(南蔵院)にもあるが、「縛られ地蔵」として有名になったのはこの頃

電車で移動

茗荷谷駅→淡路町～小川町→馬喰横山駅

品香苑 打上げ会場 会費 3,600円